



国政報告 第39号 2017.1.1 〒901-2212 沖縄県宜野湾市長田4-16-11 TEL.098-896-1810 FAX.098-896-1819 発行 テルヤ寛徳後援会 www.terukan.com

浦添市長選挙 (2月5日告示 2月12日投開票) 又吉ケンタロウ 必勝を!



2月5日告示、2月12日投開票の浦添市長選挙に「浦添をとりもどす市民の会」を選挙母体とする又吉ケンタロウ氏が立候補を表明し、多くの市民の支持・支援を得て、力強く選挙戦を展開しております。

「浦添を取り戻す市民の会」共同代表に、株式会社大成ホームの喜名奎太社長、株式会社松川オートの松川富三男会長が就任したのも、大変に心強い限りです。保革の垣根を越えて幅広い市民が結束し、今年の干支の「酉」にあやかり、浦添を取り(酉)戻し、多くの支持を取り(酉)込み、又吉ケンタロウ必勝のため奮闘しましょう。

留置場便り 顔を上げ、前を向いて! 力強く歩み続けよう!



辺野古・高江行動世話人 山城 博治

テルヤ寛徳後援会のみならず、明けましておめでとうございます。謹んで新春をお慶び申し上げます。また、これからの一年における後援会の一層のご活躍と会員各位のご多幸を心から祈念申し上げます。

浦添市議を4期務めた又吉ケンタロウ予定候補は、政治経験は文句なし、先見性を持ち、行動力も豊富で、浦添市の未来を託すに最もふさわしい人物です。私も、長年の友人として、浦添市を選挙区とする衆議院議員として、又吉ケンタロウ必勝のために全力を尽くして頑張ります。又吉ケンタロウ市長の誕生で、浦添市の歴史文化保護、地場産業育成、地域経済の活性化、子育て支援、学校教育環境の整備と充実、高齢者の介護、医療・福祉の充実、若者の雇用創出などを実現します。

我が国は、たかが一内閣の決定で、憲法の揺るがすことのできない精神を踏みにじり、集団的自衛権行使を合憲として、ついに自衛隊が米軍と一体となつて

戦地へ赴くことに道を開いてしまいがちだ。一方で、護憲の政党・社民党は本当にジリ貧と化し、その中にもあつても生き残りの闘争、我が国がテルヤ、今や国会になくはならない平和の守り手、重きをなす論客として、その双肩にこの国の未来のしかかるようになってまいりました。かたや県内においては、翁長知事を支える「オール沖縄」国会議員団の要として、迫り来る政府の攻勢に抗する陣形の中心を担い続けています。12月13日には、ついにオスプレイが墜落しました。ますます県民世論を束ね、翁長知事の下に結集し、諸々の取り組みを強化していく必要があります。そのことを大所高所から采配される寛徳先生には、あまりの負担がのしかかっています。分かれ合える責任を分かち、降ろせる荷は降ろして欲しいと、心から念願するものです。まして、今年には衆議院選挙もある、と公然と語られるようになってきました。それだけに後援会一丸となって寛徳先生を支え、共に沖縄の未来を切り拓いていくために頑張つてまいりましょう。残念ながら私は、ご承知のように昨年10月から警察の世話になっていました。それでもこの間、連日のように激励に駆け付けてくれる仲間たちや力強い弁護士団の支えをいただけて元気でおりますので、どうぞご安心下さい。寛徳先生には、病院入院中もそうであつたと思いますが、忙しい勤務の合間を縫つて、弁護士として激励に駆け付けていただいておりません。本当にいつもいつも迷惑ばかりで、申し訳ない気持ちでいっぱいです。この場を借りて形だけの御礼でもさせていただければと思います。結びに、後援会のみならず、どうぞ良いお年をお迎えください。(なお、本稿タイトルには、私に対する寛徳先生のいつもの「激」を使用させていただきました)

山城博治さんの近況を語る

沖繩平和運動センター議長の山城博治さんが、辺野古新基地反対・高江のヘリパッド建設工事反対の闘争過程で不当逮捕され、長期勾留されている名護署留置場から後援会ニュース新年号に玉稿を寄せてくれました。私がこの一文を書き綴っている段階では、博治さんは未だ留置場の中です。一緒に西年の新年を祝えないかもしれません。去る12月20日に、3件目の威力業務妨害罪で追起訴されました。12月26日の裁判進行協議を経て、1月早々にも公判が始まることとなります。

私は、山城博治さんの同志として、友人として、前原高校の先輩後輩、旧具志川市のヒンズーハルサーのクワンマガ(貧乏農家の子孫の間柄として、時に親しく、時に緊張関係も持つて接してきました。博治さんがリンパ癌で入院中は、毎週のように見舞い、励ましてきました。また、これまで不当逮捕の度に「弁護士となろうとする者」として、名護署留置場で接見してきました。

博治さんは「不屈の闘志」である反面、人情に厚く、感情のひだの多い人間です。感涙で涙もろく、一緒に運動する仲間を思う気持ちは誰よりも強い人間です。おそろく辺野古や高江の闘いの現場における行動指揮・統制では、国家権力相手に相当なプレッシャーを受け、ストレスを抱えながら運動内部をまとめ上げていたと思います。一方で、辺野古新基地建設阻止のために「日米両権力者を笑い倒せ」という博治さんの哲学と号令は、ここまで大きな闘いは創りなかつたことでは、90歳近い父親の誕生日に、留置場から花束を贈る気遣いのできる博治さんが、私は大好きです。一日も早く闘争現場に復帰することを願っています。間もなく迎える裁判闘争も一緒に頑張ります。

博治さん、西年を迎えました。一緒にウチナーのタウチー(闘鶏)になって、沖縄を軍事植民地扱いし、不条理を強いる日米両政府の権力者と闘つてまいりましょう。

戦争国家、バクチ国家へと暴走する安倍政治にストップ



安全保障委員会で福田防衛大臣を追及 =2016年11月15日



安倍政権が国家権力を総動員して暴力的にウチナーに襲い掛かっても、「非暴力抵抗闘争」で対峙し、したたかに、しなやかに、安倍政権を笑い倒す不屈の闘いを続けてまいりましょう。昨秋の臨時国会では、自公巨大与党がTPP協定承認案と関連法案、いわゆる「年金カット」法案、「カジノ解禁」法案などについて十二分な審議も尽くさず、強行採決の連続でありました。国権の最高機関たる国会は、安倍行政独裁政権下で「青息吐息」状態です。安倍政権は、間違いなく戦争国家、バクチ国家へと暴走を続けております。

破する事故が発生しました。オスプレイは、間違いなく「欠陥機」です。県民の暮らしと命を守るため、オスプレイ撤去、海兵隊の即時撤退を求めて闘い続けましょう。年男の私も決意を新たに、ウチナーのタウチー(闘鶏)になって、日米両政府の植民地支配と闘います。さて、今年には県内で各種選挙があります。わけでも2月12日の浦添市長選挙では、「反現職」の旗を立て、「オール沖縄」勢力を支えられて挑戦する又吉ケンタロウ予定候補の必勝を期して全力を尽くします。後援会・支持者の皆さん、マジューン チバラナヤサイ。

ハイサイ、後援会・支持者ヌグスーヨ、イイソーグワチデービル。ワカミジ ウサガテイ、ワカドシカラ トウミソーチャガヤーサイ。今年の干支は「酉」です。実は、私の生まれ年です。「酉」年は、十二支の中で第10番目、「酉」は「鳥」ではなく「鶏」のこと。昨年、東村高江の米軍ヘリパッド建設工事現場で反対運動を続けるウチナーンチュに「土人」などと罵声を浴びせる事件がありました。ウチナーとウチナーン

チュに対する構造的差別に基づく暴言であり、断じて許せません。辺野古や高江の現場で闘う仲間の不当逮捕、異常な長期勾留もありました。表現の自由・報道の自由を侵害する地元2紙記者の不当拘束もありました。ウチナーは、復帰前も復帰後も「憲法番外地」であり、未だに憲法の平和的生存権が否定され、ウチナーンチュの人間としての尊厳も著しく否定されております。でも、私たちは負けるわけにはいきません。

この年頭挨拶を書いている最中に、名護市安部の海岸にオスプレイが墜落、大

二〇一七年元旦 衆議院議員 照屋 寛徳